



九州支部「第24回日本生物工学会 九州支部沖縄大会」報告

第24回日本生物工学会九州支部沖縄大会を2017年12月9日（土）、琉球大学農学部にて開催いたしました。沖縄県での開催は、2001年度、2010年度に続いて3回目になります。大会参加者数は122名（一般64名、学生58名）に達し、講演数は64題（一般講演46題、学生賞応募講演18題）を数え、晴天にも恵まれて大盛会でした。9時30分から学生賞審査を1会場で、10時30分から一般講演を3会場で行いました。朝から夕方まで、どの会場でも熱心な質疑応答が行われました。学生賞は修士課程・博士課程の2部に分けて、それぞれ九州全域からお越しの5名の審査員によってそれぞれ厳正なる審査が行われました。お忙しい中、座長ならびに学生賞審査をご担当いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。昼の休憩時間には、支部評議員会・役員会も開催されました。

13時から、まず本学会会長で早稲田大学理工学術院・先進理工学部教授の木野邦器先生に支部会開催のご挨拶いただきました。その後、引き続き木野先生から「有用物質生産に向けた酵素の探索と利用研究、そして展望」と題して特別講演をいただきました。微生物の有用物質生産に向けて、代謝経路における酵素の探索とプロセス開発の取り組みや、本研究分野における新たな可能性や展望について、示唆に富んだ講演をいただきました。続いて、本学会元会長で九州大学大学院・生物資源環境科学府教授の園元謙二先生から、「酵素工学からスマート発酵工学への道程：アプローチから生まれたインスピレーション」と題して2題目の特別講演をいただきました。乳酸発酵やブタノール発酵の最適化を通して構築されたスマート醗酵工学から、100年後の生物工学会の未来予想を含めた学生および若手研究者への熱い激励までご講演いただきました。

18時より、恒例のミキサーを、生協北食堂にて開催いたしました。九州支部長の光富勝先生の開会のあいさつの後、実行委員の平良東紀先生より沖縄県内の飲料および酒造メーカーからご寄贈いただきました清涼飲料水、ビール、泡盛などについてのご紹介がありました。その後、木野邦器先生に乾杯の発声をいただきました。ミキサーには多数の大会参加者に出席いただき、お酒と料理を楽しみながら、情報交換や交流が深められました。宴もたけなわの半ばに、特別講演者の木野邦器先生と園元謙二先生に、7月から販売開始された「琉球大学の泡盛」を、本大会実行委員会会長から贈呈致しました。ミキサー中には「琉球大学の泡盛」の販売も行い、10名の方に購入いただき完売いたしました。その後、学生表彰の授賞式が行われました。本年度の受賞者は5名で、博士課程の部は後藤早希さん（熊本県大院・環境共生）「糖を炭素源とした新規の乳酸ベースポリマーの微生物合成」の1名、修士課程の部は小菌蘭さん（鹿大院・農）「サツマイモに含まれる β -D-ガラクトースの前駆体同定とその植物体での分布」と千羽啓太さん（九大院・生資環）「フェージ由来溶菌タンパク質Holinの膜穿孔機構を応用したガン細胞へのアポトーシス誘導」、渡邊康太さん（九大院・生資環）「ヒト毛髪に付着する細菌の存在形態と群集構造」、豊田早紀さん（九大院・農）「糸状菌 *Aspergillus nidulans* の糖代謝に関わる β -D-Galactofuranosidaseの機能解析」の4名でした。光富勝支部長から各受賞者に賞状と記念品が贈呈され、受賞者より一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。受賞者の皆様の更なる飛躍をお祈りします。再び歓談を続けた後、最後に大会実行委員会会長の一本締めにより、ミキサーを盛況のうちに終えることができました。

2018年度は、鹿児島大学の安部淳一教授を実行委員長として12月1日（土）に開催される予定です。多くの皆様のご参加を期待しております。（外山 博英）



会場の琉球大学キャンパス宜野湾口付近



ミキサー会場にて光富支部長と学生賞受賞者の面々